

各科の内容と系統について



職業家庭科の歩み

山崎昌甫

既に本誌八月号(一九五五年)に特集された「戦後日本教育の歩み」の中の「戦後科学技術教育の基本的性格」という小

一、性格

昭和二十六年中学校学習指導要領・職業・家庭科
一、中学校における職業・家庭科は、実生活に役立つ仕事を中心として、家庭生活・職業生活に対する理解を深め、実生活の充実発展を目ざして学習するものである。
二、職業・家庭科の仕事は啓発的経験の意義をもつとともに、実生活に役立つ知識・技能を養うものである。
三、職業・家庭科の教育内容は、地域社会の必要と学校や生徒の事情によって特色をもつものである。

昭和三十年十月の中学校職業・家庭科の改訂要綱案

一、職業・家庭科は、われわれの生活における経済的な面・技術的な面・ならびに社会的な面に関する知識・技能・態度を主として実践的活動を通して学習するものである。
二、職業・家庭科の教育は、将来にかなる進路をとる者にとつても必要な一般的教育を与えるものであるから、共通に学習すべき面をもつものである。しかし其具体的な教育計画においては、性別や環境などにより特色をもつものである。
三、職業・家庭科における産業ならびに職業生活・家庭生活についての社会的・経済的な意義の理解や、基礎的な技術の習得・基本的な生活活動の経験は、職業指導における情報ならびに啓発的経験に役立つものである。

論で述べたように、中学校の職業家庭科は今迄に次のような変遷をたどつて来ている。

二、目標

一、実生活に役立つ仕事をするための必要を理解する。
二、実生活に役立つ仕事についての基礎的な知識・技能を養う。
三、協力的な明るい家庭生活・職業生活のあり方を理解する。
四、家庭生活・職業生活についての社会的・経済的な知識・理解を養う。
五、家庭生活・職業生活の充実・向上を図ろうとする態度を養う。
六、勤労を重んじ、潔く働く態度を養う。
七、仕事を科学的・能率的かつ安全に進める能力を養う。
八、職業の業態および性能についての理解を深め、個性や環境に応じて将来の進路を選択する能力を養う。

一、基礎的な技術を習得させ、基本的な生活々動を経験させる。
二、産業ならびに職業生活・家庭生活についての社会的・経済的な知識・理解を得させる。
三、科学的能率的に実践する態度・習慣および工夫創造の能力を養う。
四、勤労と責任を重んずる態度を養う。
五、将来の進路を選択する能力を養う。

第一期(昭和二十二年四月)の新制中学の発足に伴って「職業科」が新設された。

第二期(昭和二十四年五月)の「新制中学校の教科と時間数の改正について」の通達による「職業科及び家庭科」の時期。

第三期(昭和二十四年十二月)「中学校学習指導要領・職業・家庭科」の制定に伴う「職業・家庭科」の時代

第四期(昭和三十年十月)「中学校職業家庭科の改訂要綱(案)」の通達

この変化は、当然のことではあるが、夫々の時期のこの教科に対する時々の相違を示している。いまこれを第三期(第四期)に焦点をさしほつて、最近の職業家庭科の歩みを検討することにしよう。

現行指導要領と改訂要綱との性格・目標を比較検討すると次のようなことがいえる。

第一に、「実生活に役立つ仕事を中心

として」学習し、実生活に役立つ知識・技能を養うという「実生活主義」が、実践的活動を通して「学習し」、生活の経済的・技術的・社会的側面に関する知識・技能・態度を養うというように変つてい

る。この変化は現行学習指導要領に例示された五百数十のほろ実生活に役

だつたという仕事を思いつきによつてあ

れこれととりあつることから、幾つかの

基礎的技術を覚え、その実践的活動

による学習というより広い立場をうち出

しているように思える。

第二に現行指導要領での仕事は「啓発

的経験の意義をもつた」経験主義的学習

のプロセスであったが、改訂要綱で実

践活動はかえつて「職業指導」のための

情報であり啓発的経験は探索課程(或は

トライ・アウトコース)に変わっている。

この改訂要綱の立場は、従来曖昧にされ

てこの教科の「職業指導」的性格を、職

業家庭科の中でハッキリと表面におし出

しているということが出来る。

第三に、職業・家庭科は普通教科では

あるが「地域社会の必要と学校生徒の事

情によつて」特色のある教育計画をたて

ることが望まれていたが、改訂要綱では

殊更に「一般的教養を与える普通学科」

であることを強調しながら、「具体的な

教育計画においては、性別や環境など

によつて特色をもつものである」とい

う、現行指導要領の「地域主義」的な傾向を

曖昧の中に再確認しているとみて差支

ない。

さて、今回のような指導要領の改訂

は「さきに行われた中央産業教育審議会

の建議の趣旨を尊重して実施策を検討し

た結果、「とりあえずお知らせ」する

段階になつたものである。そこで、こ

の改訂要綱の性格・目標・教育内容を更

に正しく分析する意味から、中央産業教

育審議会の二回にわたる建議を検討して

みることにしよう。

まず「第一次建議」(昭和二十八年三

月)では、次のようなことが勧告された。

第一に「仕事を中心とするということ

は、実践活動を通じて、基礎的な技術を

習得するとともに一般的理解を与えるこ

| 第二次建議 | 現行指導要領 |
|-----------------------|---------------|
| A | 技能 |
| 1. 種もみの選別をする | 1. 田の打起し方 |
| 2. 種もみの消毒をする | 2. 半馬の使い方 |
| 3. 種もみひたしをする(保温苗) | 3. 苗代の作り分け方 |
| 4. 苗しるじをつくる(保温苗) | 4. 肥料の見分け方 |
| 5. 種をじょうずにかく | 5. 水選のしかた |
| 6. 種をじょうずにかく | 6. 種もみの消毒のし方 |
| 7. 左手も右手でもくわがつかえる | 7. 種もみの没し方 |
| 8. 床や作り土の深さが見分けられる | 8. 種もみのまき方 |
| 9. 数種の肥料の見分がつく | 9. 田植のし方 |
| 10. 田の草とりができる | 10. 害虫の見分け方 |
| 11. 24・Dを使つてみる | 11. 病気の見分け方 |
| 12. いもち病・その他の病気を発見する | 12. ボルデー液の作り方 |
| 13. ボルデーがつくれる | 13. 噴霧器の使い方 |
| 14. 穂肥の要否をきめる | 14. 収穫予想のしかた |
| 15. 秋蒔田の見分けがつく | 15. 収穫期の見分け方 |
| 16. 収穫予想をしてみる | 16. いねこぎのしかた |
| 17. 収穫の適期を見つける | 17. もみすりのしかた |
| 18. 立ち毛によつて数種の品種を見分ける | 18. 依装のし方 |
| 19. 篩列をする | |
| 20. 動力を使つて種こきをする | |
| 21. 動力を使つてもみすりをする | |
| 22. 依しめ機を使つて依装する | |
| 23. 自動耕うん機が運転できる | |

(栽培・農耕一いね)

それぞれの学習系列があるのでそれを明確にし、「組織的系列の学習を行うことができるように考慮することが一要求され

第四に「学習計画の作成にあつては、狭い地域社会の特色をそのまま学習計画にもち込むのではなく、むしろ、「学習の結果として、地域社会の諸問題の解決に役だつ」ようにすることが望まれた。

第五に「必修としてのこの教科は、直接に特定の職業への準備をするものではなく、将来の進路にかかわらず男女のすべてに課せられるべきもので、「男子向・女子向の『職業・家庭科』の課程を別に(栽培・農耕一いね)

所が、この第一次建議に次いで昭和二十九年十月に提出された第二次建議では、「さらに(第一次建議の筆者)具体化について専門部会を設け、慎重に審議を続け」た結果を教育内容について建議

した。所が、次の表のように、現行指導要領の仕事のならば方と殆ど変わりばえがせず、農・工・商・水産・家庭の各分野の技能が並列的におかれているだけで第一次建議で要望された一般技術教育の教育内容としての系統的構造の再編成のありかたがうことが出来ないものである。

このようにして今回の改訂は、性格と目標については第一次建議の指向する進歩性・積極性を充分に生かしておらず、前述したようにかえって分離することが勧告された職業指導の性格が、この教科の一つの目標として強調され、従って

農・工・商・水産・家庭と共に職業指導が、この教科の新しい分野として教育内容の中に位置づけられることになったのである。

更に、第二次建議にあらわれた教育内容の技能についても、現行指導要領と五十歩百歩であるという事は、今後どのようにこの教科の性格づけや目標設定に美辭麗句を並べ立てても、いぜんとして従来の実生活主義からの脱脚は勿論、基礎技術や基本的活動の中にひそむ原理や法則を理解して、それを合目的・実験的に用いる能力は養えず、まして国民経

済や国民生活の社会的意義等は理解されず、結局狭い地域主義に停滯せざるを得ないであろうことは想像にたたくないのである。

職業家庭科の戦後の歴史は、戦前の実業科や職業指導等は家事裁縫を踏襲するものであつたり、又一九二九年の恐慌以後の戦争による以外には再び好景気が約束され得ないアメリカ社会で支配的になつた経験主義——それは無目的な試行過程の中で、歴史的な社会構造とは無関係な次元において個人の適性を発見させようとする——に基づく職業指導や家庭科であつたのである。

このような性格の職業家庭科が、日教組に結集する教師や学者によつて批判・検討され、一応第一次建議として結実したということが出来る。

今の、このアメリカのMSA戦争経済体制下の日本経済の現状において、この第一次建議の線からの一歩、更に二歩後退は、労働の強化によるコストの切り下げと生産の向上を合理化し、そのような合理化政策に柔順に奉仕する勤労者の育成を意味しないと誰が断言できようか？

(東京教育大学大学院)

全国青年教師連絡協議会

第三回

冬の勉強会のお知らせ

◇期 日 十二月二十六、二十七、二十八日(三日間)
◇会 場 東京教育大学

- ◇学習主題 戦後日本の教育理論—国民教育の前進のために
- ◇学習内容 今回の勉強会は、昨年度の反省から講師の話をきくというだけでなく、講師の問題提起を糸口に、自分たちの実践上の問題を、もつと徹底的にききただし、問ひただし、お互いに深めあうというように計画しました。参加者は、日頃の問題を整理しておも下さい。
- I 研究討議
- 第一部 国語教育の問題点
東京教育大学 倉沢 栄吉
日本作文の会 今井啓次郎
 - 第二部 数学教育の問題点
東京工業大学 遠山 啓
 - 第三部 社会科教育の問題点
歴史教育の成果と課題
歴史教育者協議会
地理教育の成果と課題
郷土教育全国協議会
高橋 順一
桑原 正雄
 - 第四部 科学教育の問題点
東京工業大学 田中 実
東京立大学 菅井 準一
 - 第五部 技術教育の問題点
東京大学 細谷 俊夫
東京工業大学 長谷川 淳
 - II シンポジウム
国民教育の前進のために
教科研常委 岡津 守彦

| 28日(水) | 27日(火) | 26日(月) | 時間 |
|-------------|-----------|-------------|------|
| 受付 | 受付 | 受付 | 8.30 |
| 技術第五部教育の問題点 | 社会科教育の問題点 | 国語教育の問題点 | 9.00 |
| 12.00 | 12.00 | 12.00 | |
| 昼食 | 食 | 食 | 1.00 |
| 国民教育の前進のために | シンポジウム | 数学第二部教育の問題点 | 3.00 |
| 閉会 | 特別講演 | 座談会(長保) | 4.00 |
| | 自由時間 | | 4.30 |
| | | | 6.30 |
| | | | 9.00 |

◇日程(左表)

◇会費 四〇〇円(会費にて)

◇宿泊 一泊二食付、米三合持

◇参の場合 五〇〇円

米不持参の場合は、米代時価

日生連幹事長 春田 正治
出席会員より教名
特別講演
芸術教育と人間形成(仮題)
創造美術連盟 久保貞次郎
座談会(夜・宿舎にて)
各地サークルの情報交換